

The logo for the Analog Synth Builders' Summit 2009 is contained within a grey, cloud-like shape. The text 'Analog Synth Builders' Summit 2009' is written in a stylized, hand-drawn font. The '0' in '2009' is replaced by a simple smiley face.

**Analog Synth
Builders' Summit 2009**

第7回

アナログシンセ・ビルダーズ・サミット

公式ガイドブック

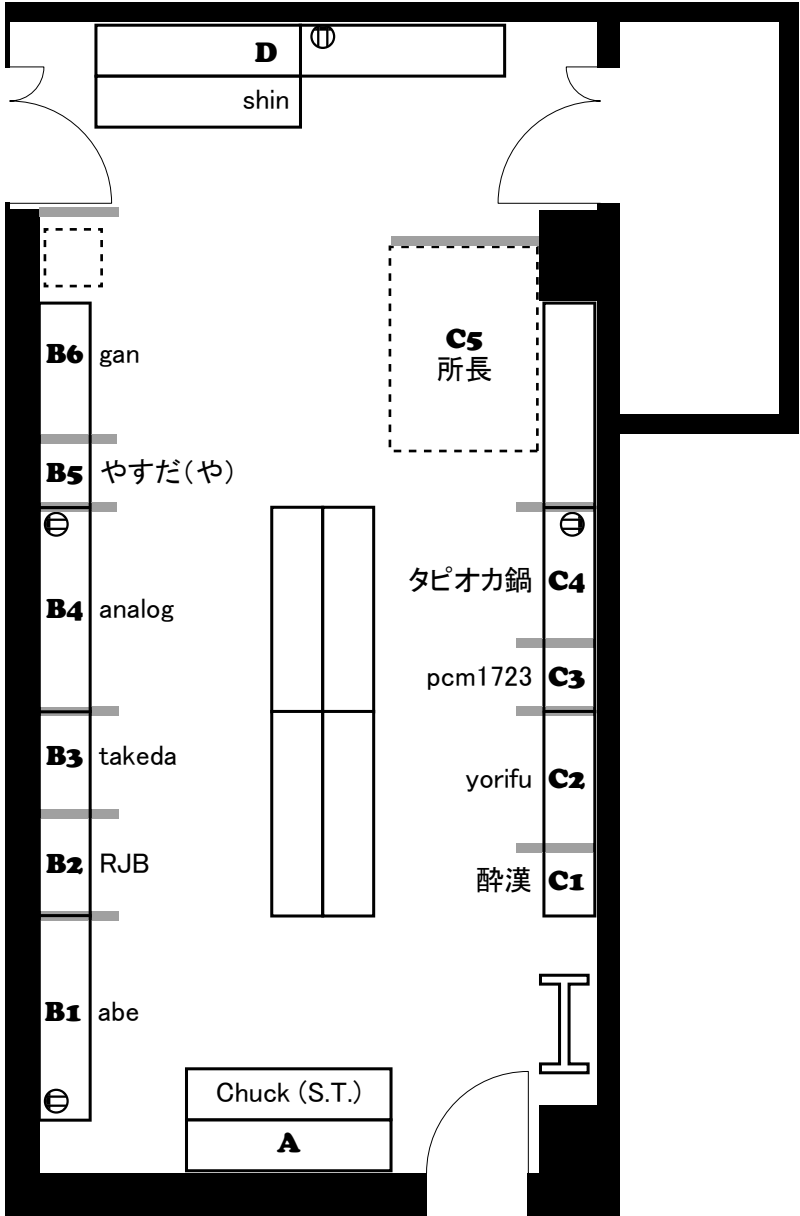
Web 公開版

日時：2007年11月24日(土) 14:00～16:30

会場：ビジョンセンター秋葉原 Hall C

主催：アナログ震世界

ブース配置図



Analog Synth Builders' Summit 2009

目次

	ハンドル名	ブース	解説ページ
A	abe	B1	2
	analog	B4	3
	andrew	*	3
B	brainbrown (ブレタン)	*	*
C	ca3080	*	4
	Chuck	A	4
G	gan	B6	5
	genie	*	6
K	KATZMI	*	6
O	OTA (オータ)	*	6
P	pcm1723	C3	7
R	RJB	B2	8
S	sayo	*	*
	shin	D	9
	SYNTHI	*	*
T	takeda	B3	10
	the_daleks	*	11
	yorifu	C2	11
さ	所長	C5	12
	シンジ	*	13
	酔漢	C1	14
	スズキ	*	14
た	たかし	*	14
	たそがれ	*	15
	タピオカ鍋	C4	15
な	なお	*	16
は	パタ	*	16
や	やすだ (や)	B5	16
	コラム「アナログ震世界」小史		8

自作2号機 (山下モジュラーシステム)

高校時代、もっぱらシンセサイザーを手に入れる目的で製作したもの。

モジュラー型以外のシンセには全く興味がなかった当時、雑誌で山下春生氏の製作記事(4ページ Chuck さんの解説参照)に出会い、問答無用で作り始めた。1978年完成。

製作から30年近く経った現在も、音大の授業で学生に楽器音響学の基礎を説明するのにこのシンセが役立っている。しかし、今まで延べ百人以上の学生の前でこのシンセで音を出したにもかかわらず、アナログシンセ自体に興味を持った学生は一人もない(寂)。

MICRO WAVE SYNTHESIZER SYSTEM-00

俗に言う「ウェーブキット」である。発売は1977年。キット自体はいただき物で1982年に組み立てる。各モジュールの入出力をサブパネルに出し、自由にパッチングできるようにした。ジャックに何も挿していないときは、内部で標準的な接続になるようにしてある。現在はコンデンサーの劣化などのため、動作が不安定だ。

アナログシンセ遍歴

小学時代、ホットバターの「ポップコーン」でシンセサイザーに目覚め、欲しくて仕方なかったが手の届くものではなかった(当時はモークのモジュラーシステムが1千万円)。

中学時代、富田勲氏の「展覧会の絵」に強い衝撃を受け、音楽の道に傾倒する。夏休みの工作でシンセもどき(1号機)を作ったが、本物のシンセには程遠いものだった。

高校時代には自作によって念願のシンセを手に入れるが、「音作りの原点」を探求するうちに、むしろ音楽作り自体(和声学や管弦楽法など)に強い関心を持つことになる。

大学時代はシンセとは縁遠い環境だったが、卒論の音感実験で自作シンセを活用。

社会人になり、気が付くとすっかりデジタル時代。**現在**は便利な道具としてデジタル音源の恩恵を享受しているが、アナログシンセの魅力が揺らいだ訳ではない。

MINIMOOG CLONE

コンセプトは『STUDIO ELECTRONICS MIDI MINI』と同じですが、さらにコンパクト化。前期型オシレータの回路を基本とし、調整は後期型同様に細かく詰められるようにしてあります。MIDI CV コンバータは Chuck 氏の MCV2313。

TR-909 EXTRACT CLONE

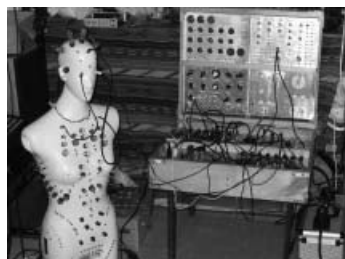
TR-909 から BD SD HH のみを抽出した CLONE。音色の可変範囲を 909 実機よりも拡大し、本物以上に本物らしい音(スタジオで加工された音)がします。MIDI インターフェースは、909 のベロシティカーブやノートオンからのモタリも再現しています。

私の名前はアンドリューです。シンセサイザーを作ること、7年になります。現在、オーストラリアの大学で電子工学を勉強しています。serge synths と tube synths に興味があります。日本語はほとんどわかりません。ごめんなさい。

homepage <http://www.sdiy.org/pinky/>

I have a few analog synths, maybe Pinky is the most famous. Last year, I made some changes to Pinky. I built an external PSU, added a CGS wavetable with numitrons (=nixies) to show bank and wave settings, also an Analog Shift Register, Morph Lag and replaced the tube VCAs with CGS VCAs.

This year I have been building thru-0-VCOs and quadrature oscillators. I have built circuits from Electronotes, Donald Tillman, Thomas Henry, Ken Stone and RJB's Korg Resonator. I am designing a beat frequency oscillator using a SN76477. I have about 20 circuits in a box waiting for me to make panels for them, maybe next year.



Pinky (左) とモジュラー群

I started a Yahoo Group - tubesynthdiy, to share and discuss vacuum tube circuits for synthesizers. I built one vacuum tube synth, it has two VCOs, one VCF, Two VCAs, beam modulator, wave clipper and three neon LFOs. Now I am building a second tube synth using circuits from old organs, vintage computers and from an old book -

<http://www.sdiy.org/pinky/judd1.pdf>

<http://www.sdiy.org/pinky/judd2.pdf>

There are many, many more circuits in the files section of the yahoo group, please join if you are interested.

I am studying electronic engineering at university in Australia. It is interesting to learn about analog circuits but I also have to study programming, which is not so interesting for me. University is very busy and I don't get much free time to build synths anymore. This year some of my course will allow me to build and research my own designs, so I will design synth modules - of course!

概訳

いくつかある私のアナログシンセの中で最も知られているのは Pinky であろう。昨年は Pinky を少し改造した。外部 PSU を作り、セッティング表示のためにニキシー管を使った CGS 波形テーブルを加え、Analog Shift Register と Morph Lag も真空管 VCAs から CGS VCAs に取り替えた。

今年は thru-0-VCO と矩形波発振器を作った。回路図は、Electronotes、ドナルド・ティルマン氏、トーマス・ヘンリー氏、ケン・ストーン氏、RJB 氏のコルグレゾネーターから拝借。現在は SN76477 を使用したビート発振器を設計中。来年パネルを作るまで、約 20 枚の基板は箱の中だ。

私は、シンセサイザー作りに使える真空管回路図の共有と情報交換のために Yahoo! Group に「tubesynthdiy」を立ち上げた。私は、過去に VCO×2、VCF×1、VCA×1、beam modulator、wave clipper、ネオン管 LFO×3 を持つ真空管シンセを作ったが、現在は古い電子オルガンと年代もののコンピュータと古い文献 (PDF 参照) の回路図を使って、真空管シンセ 2 号機を製作中だ。Yahoo! Group にはより多くの回路図があるので、興味のある方は是非参加して欲しい。

大学ではアナログ回路を楽しく勉強してる。プログラミングもやっているがちょっとつまらない。大学は忙しいが、今年度は授業で設計と製作の研究ができるので、当然私はシンセを作るつもりだ。

今年はいろいろとサボってしまい出品はナンです、トホホ。

シンセサイザーとの出会いはYMOで、そこからニューウェーブ方面に行ったクチです。生ドラムやギターサウンドの中で暴れまわる感じのシンセサイザーが好みであります。好きなアナログシンセはヤマハCSシリーズです。

今年は私生活のほうが大バタバタしてしまいほとんどハンダごてを握っていませんでしたが、なんとか落ち着いてきたので、来年こそはバリバリ自作したいです。

みなさまよろしくお願ひします！

初めての自作シンセサイザー <http://d.hatena.ne.jp/ca3080/>

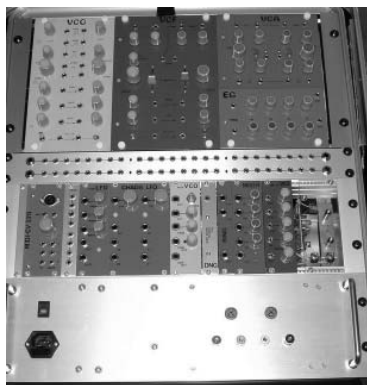
Chuck

A

Chuck のシンセ

山下シンセ(後述)を基本とし、ネットに見つかる製作記事やワンチップマイコンを利用したオリジナルを交えたモジュラ・システム。

山下 VCO	×2		
4069VCO	×1		
デジタル NG (PIC)	×1		
山下 VCF	×2		
MS-20 VCF	×1		
山下 EG	×2		
山下 VCA	×2		
山下ミキサー	×1		
山下 Ring Modulator	×1	tinyLFO (AVR)	×1
山下 Spring Reverb	×1	Chaotic LFO2 (AVR)	×1
MIDI-CV (AVR)	×1	±15V, +5V PSU	×1



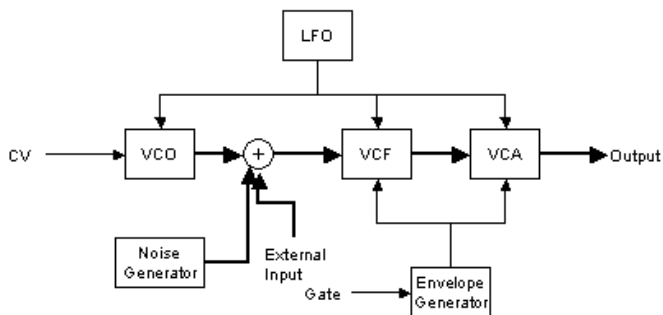
Chuck のシンセ概観

山下シンセについて 1977年1月から全15回に渡り、雑誌『初歩のラジオ』に山下春生氏による「ミュージック・シンセサイザーの回路から製作、徹底ガイド」という記事が連載されました。私はこの記事を小学生のときに見ました。当時は見るだけでしたがようやく製作スキルが付いてきたと判断し、2004年のクリスマスから作り始めました。

ひとこと エフェクタ製作を取っ掛かりに、いつかギターシンセを手がけたいというところから発展して壮大な寄り道・モジュラシンセ作りにハマっています。モジュールのアイデアは尽きず、終わりが見えません。

Analog2.0

アナログシンセキットの試作機です。できるだけ機能を省いた最小構成のモノシンセです。ユーザーが簡単に作って自力で改造できることを目指し、規格化されたモジュラー基板、わかりやすい回路、調整箇所の少ない設計をコンセプトに設計されています。



Analog2.0 の構成

試作機は内部結線されているので、電源入るとすぐ鳴りますが、モジュラー基板の良さを生かしてパッチングも可能です。

巡実は一番大変なのはドキュメント書きです。わかりやすい解説を書くのに四苦八苦中です。

くろちゃん

自作シンセ一号機です。製作開始から 25 年が経過しました。

3VCO + VCF + VCA + NG + RM + 2LFO + 2EG の詰め込み設計。

ほとんどのモジュールが Moog の回路をベースにしています。

特技は暴走です。

巡今年もベンダーが付けられませんでした。永遠の未完成品です。

ESP

回転スピーカです。回路的には、ただのパワーアンプつきスピーカです。出力 30W。苦労したのは電源です。

コンセプトは、安全思想ゼロ。使うたび間違ったベクトルでどきどきします。

ひとこと 今年、Analog2.0 の課題の多さに目を白黒させた一年でした。もうひとがんばりして何とかキット化したいです。

ブログ Synth DIY <http://synth-diy.seesaa.net/>



きっかけは W. カーロスの『スイッチト・オン・バッハ』。以来、シンセ DIY に挑戦するも実力不足で中途半端に終わっている。昨今は、強力なマイクロ・コントローラーを使えば何とかなるかも知れないなどという甘い考えを抱き、アナログとデジタルの良いところ採りを目論む。

ホームページ URL <http://netsynth.org/>

KATZMI



電圧制御式電子音楽 <http://www5f.biglobe.ne.jp/~k-lab/vc.html>

OTA (オータ)



おおた ゆうじ

太田祐史と申します。生粋のリアルタイム YMO マニアです。生まれも育ちも大阪です。3年前関東に引っ越して来ました。

昨年は高橋幸宏の事務所「オフィス・インテンツィオ」で仕事してました。現在は国土交通省の自動車運転手をしております。

楽器演奏はドラムを20年やってます。ジャンルはフュージョンが好きです。DTM やビデオ撮影編集も得意です。

所有楽器

polymoog,prophet-5

VP-330

ARP ODYSSEY

Pollard SYNDRUM

ULT-SOUND 等

PC 作業は全て Mac で行ってます。

それでは皆様よろしくお願ひします。

FM 合成方式 MIDI 音源3種

CQ 出版社の雑誌付録のマイコン基板2種 (DWM 誌 2006 年 3 月号「FRK-ADuC」、IF 誌 2007 年 5 月号「CQ_V850」) と、AVR マイコン (ATmega168) で、FM 合成方式の MIDI 音源を3種製作しました。

詳しい内容は <http://www.geocities.jp/pcm1723/> を参照してください。

主な仕様としては次の通りです。

- YAMAHA 音源チップ MA-2 の FM 音源部 (2-OP mode) の仕様に準拠
- サンプリング周波数 56kHz ~ 12kHz / 同時発音数 1 ~ 8 (V850 版)
- MIDI 入力 (31.25 kbps) / シリアル MIDI 入力 (38.4 kbps) の切り替え可能
- LCD表示 (簡易 MIDI モニタ機能)
- タクト・スイッチ / ロータリーエンコーダー入力
- デモ曲内蔵 (AVR 版以外)

MIDI2CV 3種 (簡易シンセ付き)

いわゆる「MIDI2CV」とは、MIDI 非対応の既存のアナログシンセを MIDI 化するための、MIDI から各種 CV (制御電圧) を作り出す装置のことです。しかし、今回は高精度アナログ回路を減らすため、シンセ側回路も新規に作る方針にしました。

精度が必要なピッチは、MIDI ノート、ピッチベンド、チューニング、ビブラート、ポルタメントなどの要素をデジタル値のまま合算し、リニア CV (Hz/V) 相当の値を得ます。

前述の「MIDI 音源」にも同じ処理が含まれているので、プログラムを追加して「フロントエンド」として利用しています。その「バックエンド」部分およびシンセの構成要素として、マイコンあるいは CPLD を使用したハードウェアを3種製作しました。

ひとつ目は、シンセの VCO ブロック用で、DAC でデジタル値からトップオクターヴ内のアナログ CV を作り、4 bit のオクターヴ・コードと共に渡す方式です。

ふたつ目は、Switched Capacitor Filter である MF10 使用の VCF ブロック用で、周波数情報をデジタル値のまま SPI 経由で渡すものです。バックエンド側では、PLL + オクターヴ分周によって SCF のクロックを生成しています。

三つ目は、CPLD による VCO ブロック用で、分周型 DCO に相当します。CPLD 内にオーディオ出力用 Σ DM (シグマ・デルタ) 型 DAC を組み込みました。

モジュラーシンセ

MOOGのモジュラーシンセに憧れて、2004年初めから製作を開始。現在まで8モジュール(2VCO、3VCF、VCA&EG、LFO、Resonator)を製作。シンセは見た目が大事とミーハー的発想から、パネルデザインにシルク印刷技法を真似してみたが、作業の面倒さから製作が滞っている。

74HCU04 シンセ

CMOS ロジック IC の 74HCU04 を 2 個使用し、+5V 単電源で動作するミニシンセ。74HCU04 内部のアイソレーション悪さが原因で、若干音漏れするのが難点。PWM 方式の MIDI-CV と EG 基板と組み合わせ、無印良品の亚克力フォトスタンドに取ってみた。

ポラードクローン

YMO おなじみのポラードシンセドラム 478 の回路をそのまま再現したクローン。某氏いわく、本物そっくりの音がする(らしい)。

どういいうわけか Wikipedia では、このクローンのデモがポラードのオーディオクリップとして参照されている。

テルミン的コントローラ

某サイトで紹介されていた AVR マイコンを使った静電容量計がヒント。回路は至ってシンプルだが、原理上、誘導ノイズの影響を受けやすいのが難点。

RJBlog <http://www.rjblog.net/>

「アナログ震世界」小史

1994年、日本でも一般人が利用できるISP(プロバイダー)が増え始め、1986年からパソコン通信ユーザーだった私は真っ先に飛びついた。当時はまだ日本語のウェブサイトが少なく、サーチエンジンも充実していなかったが、そんな時代にあって、個人がインターネット環境を手に入れたら、プロフィールと趣味の紹介を載せたホームページを作り、NTTの「日本の新着情報」に載せるというのが一種の儀式だった。私もそれに倣ってプロフィールと共に高校時代に作ったシンセの写真を載せてみたところ、メールをいただくなど反応がいくつかあった。

1999年2月に「アナログシンセ掲示板」を設置したところ、自作経験者や自作に関心を持つ人がじわじわと集まるようになり、同好者の多さを実感。2001年8月に掲示板をスレッド式にすると投稿数が一気に増え、投稿者同士の交流も盛んになる。

2002年9月、takedaさんの呼び掛けで第1回サミットを4名で開催。秋葉原のファーストフード店で作りかけの基板を持ち寄ってシンセ自作談義をしたり、パーツ屋を見て歩くなど、ささやかなものだった。2004年2月サイト名を「アナログ震世界」に改名、参加者のサイトやブログとの相互リンクも増える。その後も参加者数を増やしながらサミットが定例行事化。

そして2007年11月、30名近い参加者を擁して第7回サミットを迎える。(abe)

OPA MODULAR SYNTHESIZER SYSTEM III C

SPECIFICATION:

	OPA921A	OSCILLATOR DRIVER	1UNIT
	OPA921B	VCO	7UNITS
	OPA901	VCLFO	2UNITS
	OPA904A	VCF	5UNITS
	OPA902	VCA	4UNITS
	OPA911	EG	4UNITS
	OPA903	NOISE	1UNIT
	OPA995	ATTENATAR	3UNITS
	OPA994	MULTIPLE	2UNITS
NEW	OPA971	DUAL LINK DELAY	1UNIT
NEW	OPA984	4CH-4BUS MIXER	1UNIT
NEW	OPA960	SEQUENCER	1UNIT
NEW	OPA962	SIGNAL SWITCHER	1UNIT
	OPA998	CV-SWITCHER	1UNIT
	OPA CP3	4CH MIXER	4UNITS
	OPA CP2	9CV-GATE SW	1UNITS
	OPA901	POWER SUPPLY	1UNIT
	TOTAL	43UNITS	

ひとつこと モジューラー製作はとにかく疲れます。肉体的、精神的そして金銭的忍耐が要求されます。しかし、完成したときの感動を知るとやっぱやめられないんですww。

Farm

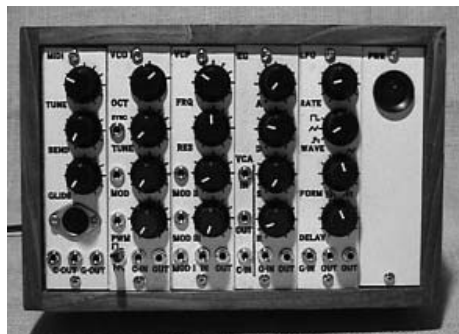
アナログシンセサイザのさまざまな回路を組み合わせる実験のためのプラットフォームとして、ラック/パネルの形状を規格化したミニモジュラーシンセ。

電源はローランドの100Mシリーズの規格の電源コネクタを使えるようにして、同シリーズのモジュールの一部としても使えるラックとした。

制作は、2001年後半から検討を始め、MK's homepageの「masa921」氏との出会いから本格化した。以来、氏にはさまざまなご指導を頂き、現在にいたる。

2003年春にはこの実験で好成績を上げたモジュールを1枚のPCBに集めたワンボードファームを発表。国内外でいくつかの追試を頂く。

モジュールとしては、VCO/VCFは、6種類以上、VCAも3種類、まだ未完のモジュールも含めれば、トータルで20以上。アナログシンセの実験農場として現在も現役で稼動中。



pARM(開発コード)

ナノより小さいくせに物騒な楽器を狙ったネーミング。本当は、Farmと、手のひら(Palm)のシャレ。

色々な音が出るより、自分の楽曲の中で使われることをイメージした音が出るのが狙い。実用色を強め、ディストーションを掛ったギターに負けない存在感のあるソクを取れる音色を目指す。

音の経路は、アナログだけど、それ以外の部分には積極的にマイコンを導入して、コンパクト化を狙う。特にRJBさんが設計されたハードに、「アルゴ算術堂」さんのソフトを載せたMIDI-CV部分や「Chuck」さんの「1chipLFO」は、本器のコントロール部分の中核部分にすべくそれぞれのプロジェクトを、積極的に支援させていただいた。

筐体デザインは、「Gan」さんが、ご自身のBLOGで紹介された「Flicker」でも作品を紹介されている「danmcp」氏のペーパークラフトの「Analogue Miniature」に



奥は操作性の確認のためにボール紙で作った実験パネル

インスパイアされたパネルデザインを「Genie」氏開発のパネルステッカーメソッドで実装。

製作の過程は「アナログ震世界」(<http://analog-synth.jp/>)の掲示板にて、ライブでレポートさせていただき、全て図面は、同掲示板にて公開されている。

多くの方のアイデアを可能な限り盛り込んで「2007年アナログシンセビルダーズサミット」にてカレーにデビュー。食べ！

SC-Theremin

テルミンの演奏技術の習得と、その動作原理の研究のために、オーストラリアの電子工作雑誌、「silicon Chip」の2000年8月号に掲載された記事を元にしたキットの改造記事を参考に、国産の部品で組み立てられるPCBを再デザインしたもの。

詳細は、現在、適宜編集集中「タケダノヲト Vol.11」(<http://www.aleph.co.jp/~takeda/radio/takedanote/vol11.html>)に譲る。

今回は内部の回路が思ったとおり動くかどうかは別で、実験中のケースの展示がメインとなる。



the_daleks



ダンスミュージックを製作している the_daleks。A-BOYSというユニット活動しています。アナログシンセやモジュラーシンセ大好きです！家でRoland SH-02とDoepferのModularを持っています。

作り方の興味あります。取り合えず皆の音聞きたい！

yorifu



ACME TB-CLONE MODULE(freshhhhh!)

解説 2003年にRoland社TB-303が欲しくて堪らなくなってしまう、回路図を基にビヨビヨと吹きながら2004年に一応鳴らせる物(展示物)を製作した。でもオリジナルの音とは微妙に違うのが面白！

回路の特徴 オリジナルも基本的に特殊な部品は少ないが、これを作成して2003年に秋葉原で普通に買える部品のみで、回路図を直球そのままに作った。ヒネリなし。おまけとしてノイズ(ホホワイト/レッド)生成回路も付けた。MIDI → CV変換回路はお手軽にPICマイコンで作成。ただし、プログラムの設定値のミスで素敵に音痴。

電子楽器研究所 出展物説明

当研究所ではアナログシンセサイザーの研究をやっていた…はずですが最近ではもっぱらリペア屋になっております。その中のいくつかを展示します。

鍵盤モノ

- Juno-60** 私のシンセ道の原点。スライダー清掃技術の実験台でもあります。
- Promars** 数少ないメモリー付モノフォニックシンセ。だけど肝心のメモリーが死んでる…。
- RS-505** パラフォニックストリングス。パラと言うとおりベースとシンセも内蔵している。コーラス部分の修理がまだ終わっていない…。
- SH-5** 某 SNS 経由で修理依頼された代物。鍵盤付シンセの中でも数少ないモジュレーションの豊富なモノシンセ。

エフェクターラック

Roland SBF-325、SDD-320、SDE-2000、SEQ-315、RSP-550

Yamaha E-1010、GC-2020

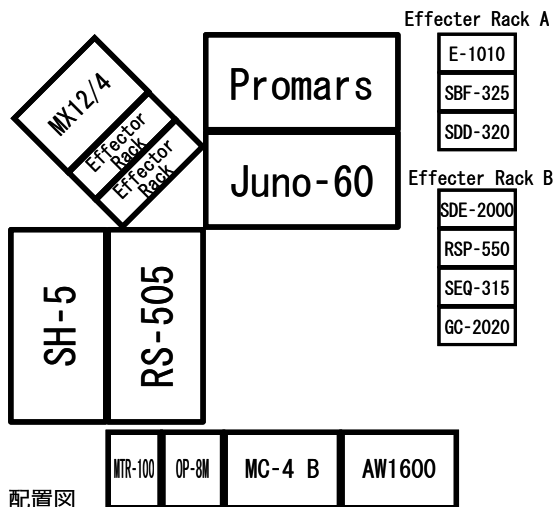
いずれもいわくありの代物ばかり…。所有しているうちのほんの一部です。

その他

Roland MC-4 B+OP-8M+MTR-100 : 80 年代的音楽制作道具

Yamaha AW-1600 : 記録用

Yamaha MX-12/4 : ミキサー



ひとつこと 最近になって部屋が一段とせまくなりました(泣)。

配置図

10歳で秋葉原デビュー、秋葉原歴40年になります。電子工作大好き少年でした。初めころは真空管全盛時代。ラジオ少年として、真空管式の短波受信器を製作したのが始まりでした。O-V-1から始まり、5球スーパーヘテロダイナなどを製作していました。そして、アマチュア無線にのめりこみ、色々な通信機を真空管で自作。

初めて見た電子楽器は、初歩のラジオに載っていたテルミンだったか。トランジスタ発振器を利用した電子オルガンのような物も作りましたが、おもちゃのようなものでした。

70年代になり、FM東京の深夜番組で、プログレッシブ・ロックが盛んに紹介され、プログレッシブ・ロックが大好きになりました。ワルター・カーロスや冨田勲さん達が「シンセサイザー」で演奏した音楽を聴いて「ぶっ飛んだ」思い出が強烈に残っています。

電子回路が好きだったので、VCO、VCF、VCAなどの組み合わせで音を作るというシンセに大変興味を持ちました。しかし、楽器や音楽については理解がなかったので、自分で演奏するというようなことは想像もしませんでした。

70年代後半は、主な興味が無線からコンピュータに移り、中古のミニコンなどをいじって遊んでいました。そして、マイコンの出現でマイコンにのめりこみました。WAVEのボード型シンセキットなどを組み立てていたのがこのころです。デジタル回路の論理性にシビれましたが、低周波系アナログ回路がユニット化されているアナログシンセは、アナログコンピュータの操作感に近いものがありロマンを感じました。アナログコンピュータの外観は、モジュラーシンセと見分けが付かないぐらい良く似ています。

コンピュータのジャンク屋さんで面白い方と知り合い、意気投合して自宅に遊びに行ったら、ARPシンセサイザーがど〜んと鎮座。初めて見る本物の大型シンセに大感激。その場で操作をして、色々な音を出す体験。未だに忘れられない出会いでした。

その後、ローランドからSYSTEM-100(200?)を借り、自作のマイコンシーケンサーで当時人気爆発のYMOの曲を演奏したのがシンセ歴の最後のような気がします。

現在は、10億近いトランジスタを集積した最速CPUでPCを自作する毎日です。デジタルの世界ですが、設計や組み立てには、アナログ回路の自作経験が役立ちます。真空管全盛時代から、超CPUの時代まで現役で楽しむことができました。

最近、WAVEのような楽しいキットがとでも欲しくなり、どこか奇特的なメーカーが復刻しないかと探索していたところ、偶然サミットの情報を知り、参加することにしました。アナログシンセを愛する方達と、その作品を見れることを、とても楽しみにしています。

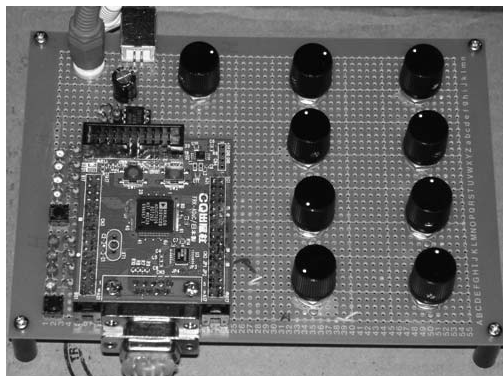
ニワトリ・シンセ

Design Wave Magazine 2006/Apr 付録のARM7 CPUを使ったワンチップ・シンセサイザーです。ワンキーで演奏できるように内部に楽譜情報が入っています。全部C言語で書きました。ほとんど信号処理をしていないため、アセンブリ言語にしても性能は

変わらないと思いますが、DCFだけは精度の点で書き直しが必要だと思います。楽譜を入れるなら、いつそ自動演奏とも考えたのですが、それはオルゴールのような気がしてやめました。

DAC 出力には LPF を入れていないため、エイリアスが聞こえるかもしれません。

実験をしながら1ヶ月程度で作りました。



スズキ



初めまして。NHK ラジオの「土曜あさいちばん」「日曜あさいちばん」という番組を担当しています、鈴木あさ子です。今回はラジオ番組の取材でお邪魔させていただきます！

アナログシンセは私にとっては未知の世界です。どんな音が出せるのか、どんなことをすると、音が出るものを作れるのか、間近で見られるサミットにワクワクしています。アナログシンセを作る楽しみを、今まで知らなかった人にもわかりやすく伝えられたらと思っています。

わからないことばかりで、質問攻めにするかもしれませんが、よろしくお願いいたします！

たかし



たかさんのつまみを見るとドキドキします。アナログシンセの基盤を作ったのはかれこれ30年以上前です。1音に1基板。1オクターブ作ったところで挫折しました。発振がうまくいかない基板もあつたりして。鍵盤もエレクトーンのジャンクを切ったりして...さすがにもう所有していません。ここ数年ビンテージで状態のいいMOOG III かシステム55を探しています。レプリカも2社ほどあるようですが、実際どうなのかみなさまに伺いたいところです。現在は昔の名残でハモンドB3とMINIMOOGなどを所有していますが、ハンダゴテのほうはしばらく触っていません。震世界を見て再び火がつかしました。

所有アナログシンセ

Roland Juno-106

Roland MC-202

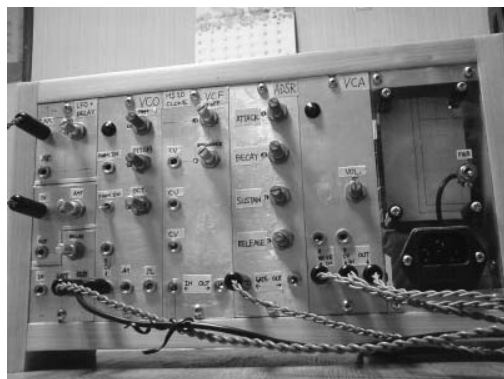
今回、初めて参加させていただきます。音楽を作っています。autechre、aphex twin、the bugなどが好きです。自分でアナログシンセを作りたいと思っています。宜しくお願いします。

タピオカ鍋

C4

自作シンセ (名称未決定)

市販のアナログシンセに触れたことがないので、なんかカッコよさそうだと思い、作り始めました。コンセプトは「本棚に置いておけるもの」ということで新書と同じ高さです。電源、VCO、VCF、VCAがtakedaさん、ADSRがmasa921さんのコピー。LFO関連は寄せ集めで作りました。ラベンダーかモスグリーンに塗装予定。



ツマミもまだありません

鍵盤 - CV/GATE 回路

シンセを作る途中でこれを演奏する楽器が欲しくなったため、ジャンクの Porta Soundを購入して鍵盤を取り出し、つなぐ回路を作りました。後着優先のコードをPICに書き、CV/GATE出力部はRJBさんのMIDI-CV回路のコピーです。バラック。

ひとこと どうも。タピオカ鍋といいます。2005年春頃から皆さんのサイトを覗きつつ、こっそりと回路を追試しています。

初参加となります、原田直樹(なお)と申します。

アナログシンセに限らず、ツマミがたくさん並んだ機械のパネルを眺めているだけで幸せです。接骨院の電気治療器?のパネルでも結構萌えました。

アナログシンセ使用歴

- 1981年 ヤマハ CS15D
- 1982年 アムデック PCK-100
- 1983年 ローランド MC-202 SH-2
- 1993年 シーケンシャル prophet-5
- 2004年 ヤマハ CS-15

シンセ関連ウェブサイトを1997年より開設しています。

電子楽器博物館 <http://www.denhaku.com/>

ウチのサークル Muse Music Synth. Lab. は、30年余りの歴史を誇りますが、本格的な製作はその昔「電子展望」に連載したもので途絶えてしまっています(笑)。

最近は何となく部品屋として、ビルダー仲間の皆さんの部品確保のお手伝いが趣味になりました。<http://mmslab.org> にもぜひお越しください。

マイコン・シンセ

1つのマイコン(ATmega32 @16MHz)で、VCO, VCF, VCA, EG, LFOを作成しています。ネット上にあったものが、MIDIコントロールだったので、全ての操作をパネルから行えるようにし、おまけにオモチャの鍵盤まで付けました。8ビット処理なので、量子化ノイズやエイリアシングが目立つのは「御愛嬌」。



ひとつこと サミット開催に合わせて作り始めましたが、組込みが前日とギリギリまで慌しかった。もう少し機能が追加できそうです。

居住地別参加者数

千葉県	2
東京都	13
神奈川県	6
山梨県	1
愛知県	1
大阪府	3
オーストラリア	1
その他	1
合計	28

Q:このイベントをどのように知りましたか?

アナログ震世界の掲示板に参加して	15
知人から聞いて	5
アナログ震世界の掲示板をROMして	4
ブログで	3
mixiのコミュニティーで	1

第7回アナログシンセ・ビルダーズ・サミット 公式ガイドブック

発行日 2007年11月26日 第3版 (Web 公開版)

編集者 阿部隆人

発行者 アナログ震世界

<http://analog-synth.jp/>

発行所 エイブクリエイション

〒105-0003

東京都港区西新橋3-23-6 白川ビル2A

非売品。このPDFの内容を改変しない限り複製及び再配布可。
発行者のURL及び発行所の所在地は将来予告なく変わることがあります。
著作権はアナログ震世界及び各紹介文の当該執筆者が所有します。

Not for sale.

© 2007 copyright by analog-synth.jp and each writers.

